

教育講演2では東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分野教授の長谷川 友紀先生に「論文の書き方についてー学会雑誌投稿を目指してー」についてご講演いただきました。これまで医学論文の書き方について系統的に学んだことのない方を想定し、医療マネジメントに係る論文作成の基本的な事項を簡潔に説明していただきました。講演の論文発表を検討している方にとっては大変参考になったことと思います。

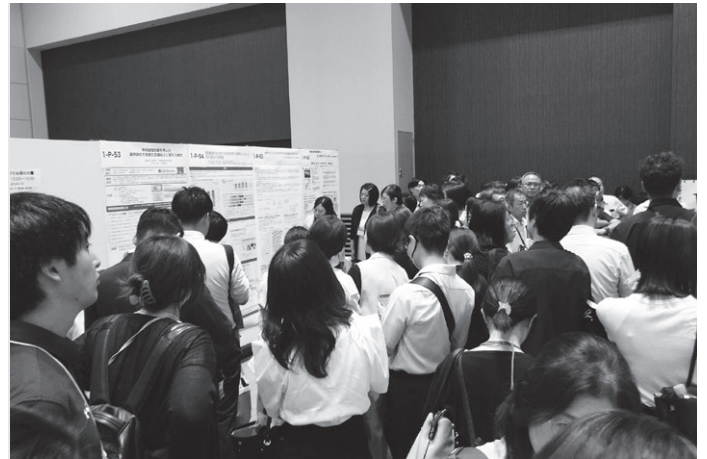
教育講演3は福岡国際医療福祉大学ヘルスサービスリサーチセンター所長の松田晋哉先生に「新しい地域医療構想の考え方」についてご講演いただきました。新構想では入院医療だけでなく、外来、在宅、介護についてもその提供体制を、これらのサービス間の連携も含めて検討することを求められています。社会保障人口問題研究所が公開している各地域の医療需要及び介護需要の予測のデータを用いて、新構想のための地区診断をどのように行うべきなのか説明していただきました。役立てたいと思います。

教育講演4は社会保険診療報酬支払基金本部理事の山本光昭先生に「医療分野におけるDXと医療経営の今後の展望」についてご講演いただきました。DXや医療政策によって医療サービスが大きく変貌していくなか、病院運営をはじめ医療事業をどのように展開していくべきかの示唆とともに、資金確保法や行政へのアプローチの秘訣などにも言及していただきました。大変参考になりました。

教育講演5は早稲田大学理工学術院創造理工学部教授の棟近雅彦先生ならびに飯塚病院看護管理師長の倉智 恵美子先生に「セル看護提供方式について」についてご講演いただきました。

セル看護提供方式はなぜ質改善に有効か、看護師の働き方改革が患者の価値の最大化をもたらすセル看護提供方式について説明いただいた。本方式の採用を検討する病院の増加が予想されます。

教育セミナー1【クリティカルパス】では「クリティカルパスの基本ー職種別にー」というテーマでNTT東日本関東病院情報システム担当の村木泰子先生、国立病院機構九州がんセンター副院長の中村元信先生、つくし野病院名誉院長の勝尾信一先生にそれぞれ、「看護師にとってのクリティカルパス～看護記録の視点から～」、「クリティカルパスを使用するにあたって医師が知っておくべきこと」、「病院チーム全体にとってのクリティカルパス」の効果についてお話いただきました。クリティカルパスの使用はTQMのツールとして多くの課題で有用であることが示されました。



会場風景

教育セミナー2【医療安全】では「患者(人間)中心性は何かー世界のトレンドを正しく理解するー」というテーマで群馬大学医学部附属病院医療の質・安全管理部部長の田中和美教授、板橋中央総合病院副院長の小松康宏先生、山梨大学大学院総合研究部医学域医療安全学講座教授の荒神裕之先生、(一社)日本ペイシェント・エクスペリエンス研究会理事の安藤 潔先生にそれぞれ「診療録は誰のもの? 医療情報を患者と共有することの意義」、「医療の質の観点から共同意思決定(SDM)を考える」、「診断における対話～患者と医療者の協働プロセス～」、「患者経験価値調査とペイシェント・ジャーニーマップ」についてご講演いただきました。患者中心性に関して患者参加型医療、共同意思決定、その評価指標として患者経験価値について検討されました。

シンポジウムはメインシンポジウム・会長特別企画を含め18題を企画いたしました。

メインシンポジウムでは本学術総会のテーマでもある「人口減少社会の医療・介護に求められる変革」について5名の先生方にご講演をいただきました。医療介護政策の方向性についてこれからの地域医療のデザイン、医療・介護連携の有機的再構築による地域マネジメント、人口減少社会における地域医療構想の進展と期待、震災復興からの地域コミュニティの再生と健康づくり活動について討論されました。医療介護政策の方向性、地域医療マネジメントの基盤づくりについて活発な意見交換が行われました。

特別企画(生成AIによる講演)では「医療DXとアクセシビリティ」について東京慈恵会医科大学先端医療情報技術研究講座准教授の高尾洋之先生に生成AIによるご講演をいただきました。「誰一人取り残さない」デジタル社会の実現のため「必要な情報をいつでもどこでも誰でも得られる」ICTを、社会に浸透させる必要があります。演者は病を得て四肢障害となったがICTを活用し